

群 教 セ	G09 - 02
	平 27. 257 集
	英語一中

自分の考えや気持ちをまとまりのある 英文で表現できる生徒の育成

—— 「伝えたい！」と思える表現活動を通して——

特別研修員 田邊 陽子

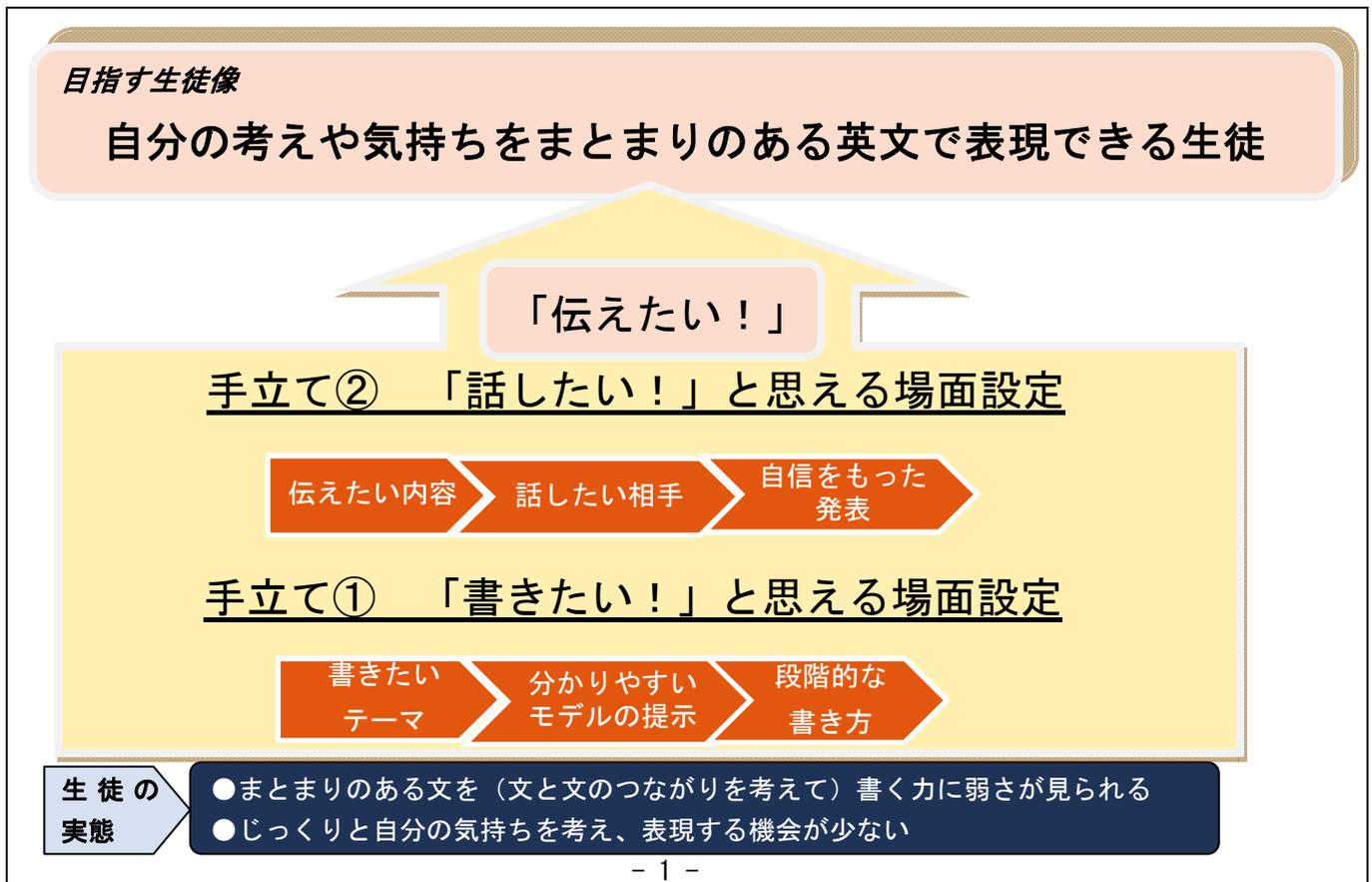
I 研究テーマ設定の理由

「はばたく群馬の指導プラン」の中で示されている外国語の課題として、「動詞を適切に変化させて使用する」「まとまりのある文を正しい英語で書く」「まとまりのある英文を読む」の3つが挙げられている。その中でも、まとまりのある文を正しい英語で書くことは、新学習指導要領においても「書く」力の低下が課題となっており、新たに重点をおいて取り組ませたい活動として示されている。本校生徒の実態を見ても、英語を話すことには大変意欲的に取り組むことができるが、書く活動では、「何を書いたらいいのかわからない」や「英語でどうつなげて書いたらいいの?」「伝えたいけど、自信がない」という声が聞こえ、積極的に取り組んでいるとは言えない。本研究では、まとまりのある英文を書くことができるようになるために、自分の考えや気持ちを「書きたい」「話したい」と思える場面を設定し、さらに表現の方法についても工夫することで、自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で表現できる生徒を育成することができるであろうと考え、今回の研究テーマを設定した。

自分の伝えたいこと(考えや気持ち)を相手に伝え、理解し合うことは、コミュニケーションを図る上で、必要とされる力である。具体的には、「正しい綴り、正しい語順で伝えたいことを英語で話す」「書いたことを基にスピーチをする」「相手の言った内容を聞き取る」など、自分の言葉で言い換える活動へと発展させながら、相手に自分の伝えたいことを英語で表現できる力を育成させたい。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

「伝えたい！」と思える表現活動とは

「伝えたい！」と思える表現活動とは、生徒が積極的に英語で自分の考えや気持ちを表現する力を育てるための活動である。そのためにまず「書きたい！」と思える場面設定をすることで、自分の伝えたい内容を考え、書く。次に、自分が書いた英語を「話したい！」と思える場面設定をすることで、自分が伝えたいことを英語で話す。このような表現活動を英語の授業の中に取り入れることは、生徒たちが英語で自分の考えや気持ちを表現する力を育てるために効果的であると考えられる。

① 「書きたい！」と思える場面設定

- 書くテーマの設定（生徒の実態、学校行事、これからの生活に関連させる）
- モデル文の提示（ALTとの会話から聞きとらせる、拡大コピーでわかりやすくする）
- 段階的に書ける工夫（つながりのある文を書くことができるワークシートの活用）

② 「話したい！」と思える場面設定

- 話すテーマの設定（生徒の実態、学校行事、これからの生活に関連させる）
- 話す相手の設定（ALTや学校の先生、友達、家族、自分自身へなど相手を意識した発表をする）
- 自信をもって発表できる場（分からない語は英語で質問し確認する、相手の言ったことに一言英語で返す活動、英文の添削、家庭学習での練習、読みの確認練習を徹底する）

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自分たちが体験したことを活かし、ALTに紹介することや、ALTのモデル文から自分のこととして考えることで、書く活動にもスムーズに取り組むことができた。

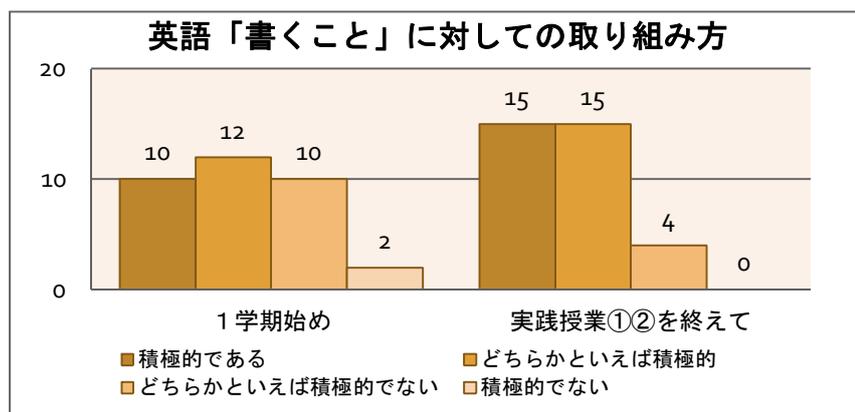


図1 アンケート結果より

- 図1のアンケート結果のとおり、「書きたい!」「話したい!」と思える場面設定を手立てとして取り入れたことで、「積極的である」と「どちらかといえば積極的」を合わせると、「書くこと」に積極的に取り組むことができるようになった生徒は、34人中30人となり、始めの頃と比べると8人増になった。
- 段階的に書きながらまとまりのある文を書くことで、全員が30語以上の英文を書くという目標も達成することができた。
- 書く活動の中で、自分の伝えたい表現についてALTに英語で質問し確認できたことや使いたい表現についてペア活動で繰り返し口頭練習をしたことで、自信をもって表現することができた。

2 課題

- まとまりのある文を書くためには、語彙の習得が必須である。語彙に関する帯学習を授業の中に取り入れていく必要がある。
- 書く活動と発表について、3年間を見通した段階的・継続的な内容となるように年間指導計画に具体的に位置付け、行事との関わりも考えながら、ALTとのTT指導を充実させることが必要である。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 Lesson3 Flight to the U.K. (Total English 2 (学校図書) 第2学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本題材は、タクが夏休みを利用して、イギリスに住むおばの家へ遊びに行くという場面である。ロンドンに向かうタクが、搭乗した飛行機で予定を表すwillを用いた機内放送を聞き、機内では隣の席の人とbe going toを使って今後の予定について会話をするという設定になっている。生徒にとっては、海外へ旅行をするときに経験する内容であり、機内での会話や入国審査でのやりとりは、興味を持てる題材である。入国審査についてはぜひ体験的活動として授業に取り入れたい。

新出言語材料として、未来・予定を表すwill、近い未来や確実にを行う予定を表すbe going toを学習する。本時では、willの表現を毎時間の帯学習を通して繰り返し練習させ、自分の伝えたいことを口頭で言う。言ったことをワークシートやノートに書き、ペアワークで確認する。willの確認をしてから、ALTの先生におすすめの夏休みの東京旅行計画についてグループでwillを使って書く。さらに、書いたものについては、ALTの先生に紹介する(発表)。

3 授業の実際

(1)「書きたい!」と思える場面設定

①テーマの設定

テーマ: ALTの先生におすすめの夏休みの東京旅行計画

②モデル文の提示

自分たちの体験が基になるモデル文

モデルとして、まず始めにALTとJETが会話を行い、一つの見学地を英語で紹介した。そのあとにモデル文を掲示し、どんなコースで見学していくか、見学地についての説明をALTに分かりやすく伝えられるようになることが最終的なゴールであることを伝えた。

見学地1: Asakusa	First, we will go to Asakusa. We will ride a rickshaw. We can eat <i>Ningyouyaki</i> there.		
見学地2: Tokyo Sky Tree	Second, we will visit Tokyo Sky Tree. It is 634meters high. We will see <i>Sorakara-chan</i> and eat lunch in <i>Soramachi</i> .		
見学地3: Ueno Zoo	Third, we will go to Ueno Zoo. We will see pandas, lions and snakes!		

図2 授業で使用したモデル

③段階的に書く工夫

相手の見たい場所や興味があることを取り入れていく

実際のALTとJETとの会話から生徒が質問し理解していく場面(質問しながら理解する)

JET: What are you interested in about Tokyo?
ALT: Well, I'm interested in beautiful view!
S: View? What does it mean?
ALT: It means good scenery. For example,
if we climb Mt. Fuji, we can see very beautiful view!
S: あ〜、わかった! 景色とか眺めのことじゃない?
I understand! Thank you.



図3 生徒がALTに質問する様子

(2) 「話したい！」と思える場面設定

ALTに自分たちの考えた東京旅行計画を発表した。実際に東京班別学習を終えていた生徒たちは、それぞれの見学地でのおすすめの食べ物やおみやげなど知り得た情報を盛り込んで紹介することができた。

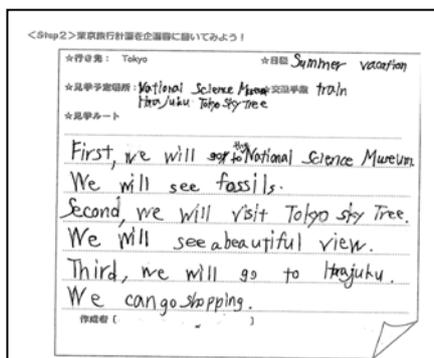


図4 生徒の作品①

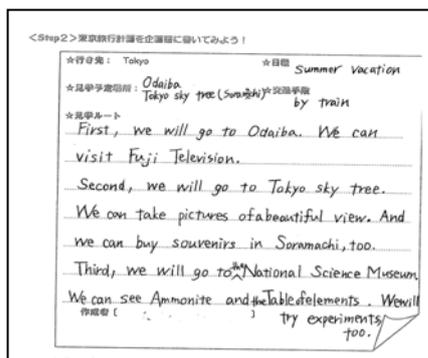


図5 生徒の作品②



図6 グループでの発表

4 考察

【手立て1：「書きたい！」と思える場面設定について】

- 自分たちが体験した東京班別活動を授業の中に取り入れたことで、生徒は実際の体験を思い出して東京旅行の計画作りに取り組むことができた。また、他の班の情報などを参考に自分たちは訪れていないところもコースに入れることができた。ALTの希望に合わせて見学地を考えることは「書きたい！」という意欲付けに大変効果的であった。
- モデル文については、ALTとの会話で導入した後、拡大版を黒板に掲示した。モデル文の内容は生徒たちが訪れた場所や見てきたものなどを紹介したもので、生徒はしっかりと聞き取ることができた。しかし、黒板に掲示したワークシートの字が少し小さく、見えにくいものになってしまった。
- 東京のおすすめの場所を3か所コースに入れて、紹介することを課題にしたところ、生徒は30語以上の英文で表現することができた。どの順番で巡るかも考えることで、文のつながりも自然になった。

【手立て2：「話したい！」と思える場面設定について】

- グループで考えた東京旅行の計画をALTの先生に紹介するという場面では、しっかりと伝えることができた。また、一人で発表するのではなく、班のメンバーと一緒にあったので安心して発表することができた。
- 発表の段階で、生徒が自分で調べて入れた未習得の単語について、読み方を確認しないまま発表をさせてしまった。特定の生徒が大きな声で発表し、自信のない生徒は大きな声で発表できなかった。自信をもって発表に臨めるよう、教師が生徒の本文を確認したり、読み方の指導を確認したりすることが今後必要である。
- 実践授業後は、生徒が「書いて発表する活動」に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。今後書いて話してみたいテーマについて多くの意見が出てきた。授業に取り入れられるものは取り入れ、さらに生徒の「書きたい!」「話したい!」意欲を高められるようにしたい。

- ・学校の紹介文を書きたい!
- ・自分の大切なもの(宝物)について書いてみたい!
- ・自分の将来の夢について書きたい!
- ・日本の紹介文を書きたい!
- ・友達のことを書きたい!
- ・外国の人へ手紙を書いてみたい!
- ・物語や詩を書けるようになりたい!
- ・読書感想文を書いてみたい!

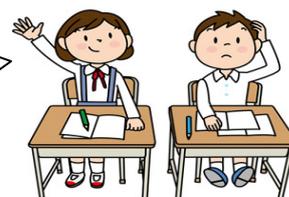


図7 生徒が授業後に書いた感想より「こんなテーマで書きたい!」

実践 2

1 単元名 Chapter3 Project 将来の夢 Total English 2 学校図書 (第2学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本題材は、Lesson5(Career Experience)で学習した不定詞を用いて、自分の「将来の夢」についてスピーチ原稿を書くことを目標とする。また、既習表現を用いて、より具体的な内容で、自分が将来なりたい職業ややりたいことについての理由や得意なこと、体験したことなどを段階的に書けるようにする。現在形、過去形、未来形も既習しているので、自分の伝えたいことに合わせて、さまざまな時制を活用しながら、書くことができる題材である。また、「～だから」という理由や「～をしてみたい」という希望など、自分の気持ちや考えも加えることができる。自分の「将来の夢」というテーマにおいては、気恥ずかしく感じ、まだ現時点では何になりたいのかははっきりと決まっていな生徒もいるが、自分の将来について考える機会になると考える。さらに、小学校外国語活動の「Hi, friends!2」Lesson8で、What do you want to be? 「夢宣言」の単元があり、その中でも生徒たちは自分の将来の夢について発表を行っている。今回の題材は、小学校外国語活動をさらにグレードアップさせ、I want to be～.に加えて、I want to do～.を使い、自分の気持ちや考えを盛り込みながら表現することができる。自分の「将来の夢」をより身近に感じ、実現に向けてがんばっていききたいという気持ちをもたせることのできる題材である。

3 授業の実際

(1) 「書きたい!」と思える場面設定

① テーマの設定

20歳の自分に向けた「将来の夢」ビデオレター作り

② モデル文の提示

ALT のビデオレターを見せる

Hello, Caity!

I want to be an English teacher.

I like to study languages and to talk with people. I like to help my friends study. They like to study languages with me, too.

In the future, I want to teach English in Japan. I think it will be a difficult job, but it is important to talk with many people.

I hope that they will enjoy my classes.

Thank you.



図 8 ALT のビデオレター

③ 段階的に書ける工夫

情報を聞き出したり、まだ学習していない語についてALTに質問し、理解する

実際の会話の様子

JET: What does Caity sensei want to be?

S: She want to be an English teacher.

あれ、she だから wants だ!

JET: What does she want to do in the future?

S: She wants to teach English.

JET: Where? S: In Japan!!

ALTに質問している会話

S: Can I ask you?

ALT: Sure!

S: How do you say “大工” in English?

ALT: It's a carpenter!

S: Carpenter? How do you spell?

ALT: C-a-r-p-e-n-t-e-r.

(2) 「話したい！」と思える場面設定

① 20歳の自分に向けたビデオレター原稿作り

「将来の夢」を大人になった自分に向けたビデオレターとして伝える場面を設定した。

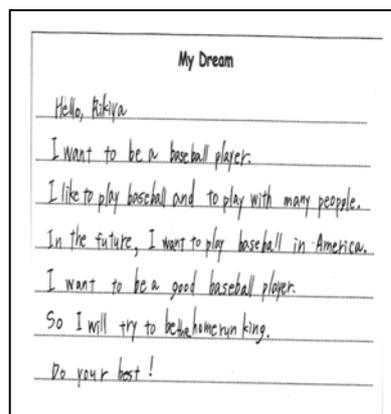
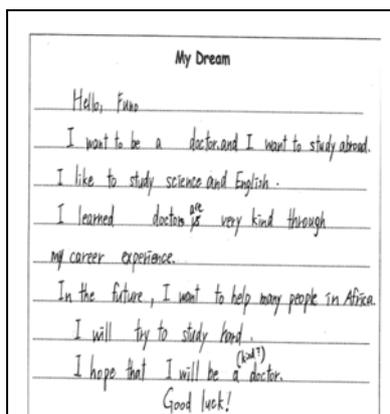


図9 ステップ①～③に合わせて書いた作品 図10 生徒「将来の夢」原稿① 図11 生徒「将来の夢」原稿②

生徒は、ステップに合わせ、将来の夢について考える。Step①なりたい職業→Step②その職業に就きたい理由や自分が好きなこと→Step③将来やってみたいことへとつないで書くことができた。(図8) ステップ①～③をまとめ、自分への励ましの言葉を付け、仕上げていく。原稿①は、58語で、原稿②は、48語で書くことができた。(図9・図10)

② ビデオレターの録画

「将来の夢」について、ビデオレターの録画を行った。一人40秒から1分程度の録画であるが、生徒は自分が納得したものを残したいという思いで、最初から最後までしっかりと原稿を暗記し、33人中30人は原稿を見ないで発表することができた。生徒が進級するときにDVDにしたものを配付する予定である。

また、みんなの前で発表したいという生徒には授業の中でその機会を与えた。「将来の夢」については、ほとんどの生徒が自分以外の発表内容を理解できていた。

4 考察

【手立て1：「書きたい！」と思える場面設定について】

- ALTの「将来の夢」についてのビデオレターを見せることは、自分がこれからすべきことをイメージするのに効果的であった。
- なりたい職業、その理由、そして将来やってみたいことをステップ①～③の段階で書くことで、まとまりのある英文に仕上がりに、30語以上という目標の英文を書くことができた。

【手立て2：「話したい！」と思える場面設定について】

- ビデオレターとして「将来の夢」を録画する場面では、自信をもって発表できるように内容と読み方の確認をしっかりと行ったことで、原稿を見ずに発表することができた。
- 職業の専門的な表現については、英語で質問し確認しあい、発表後も「Good dream!」「You can do it!」「Do your best!」などの言葉がけをさせたことで、相手を意識した発表をさせることができた。